沿革｜畜産研究所

昭和２７年度	東根市一本木に総合種畜場開設（既存の最上種畜場並びに置賜種畜場は廃止）
昭和３２年度	家畜人工授精施設が完成し、県内一円に精液の供給を開始
昭和４１年度	豚産肉能力検定施設が完成。山形県畜産試験場（８係制）となる 東根市大字沼沢地内に 444,113 ㎡を買収、放牧試験地を設置
昭和４７年度	豚産肉能力検定業務を中小家畜分場に移す
昭和５０年度	肉用牛間接法産肉能力検定事業を開始する
昭和５１年度	中小家畜分場が養豚試験場として独立(養豚部門は養豚試験場、養鶏部門は畜産試験場所管となる)。 優良乳用種雄牛後代検定推進事業を開始する
昭和６０年度	受精卵移植による子牛を県内で初めて生産（計５頭、うち２頭は双子）
昭和６２年度	主管課が畜産課となる（旧主管課：農業技術課）
昭和６３年度	体外受精卵移植による子牛生産に成功。 畜産試験場移転地が新庄市（県立農業大学校周辺）に決定
平成　２年度	高品質肉用鶏（仮称：山畜鶏１号）の作出に成功
平成　４年度	山畜鶏１号の正式名称が「出羽路どり」と命名される。 畜産試験場移転地（新庄市鳥越）の土地基盤整備完了。 副場長２名、研究主幹２名体制になる
平成　５年度	アメリカ・カナダからスーパーカウ３頭導入。 畜産試験場新築工事が始まる
平成　６年度	アメリカ・カナダからスーパーカウ３頭導入
平成　７年度	畜産試験場の完成（新庄市）及び移転。畜産研修所廃止。１課１室４部体制となり、技術開発企画室が企画情報室となる。 県産種雄牛第１号「貴平３」誕生
平成　９年度	山形県農業研究研修センター畜産研究部（１室４科制）となり、副総長（畜産担当）職及び部長職が新設された。同時に、企画情報室が情報管理室となる。クローン牛誕生（４月、１１月)。 主管課が農業技術課となる（旧主管課：畜産課）
平成１１年度	草地研究科が草地環境科となる
平成１３年度	情報管理室が企画情報室となる。 県産種雄牛「安鶴１６５」「安秀１６５」誕生
平成１４年度	企画情報室廃止となり、４科制になる。 県産種雄牛「北景茂」誕生
平成１６年度	県産種雄牛「平安菊」誕生。 赤笹シャモを交配した新しい肉用鶏「やまがた地鶏」誕生
平成１７年度	山形県農業総合研究センター畜産試験場となり、総務課、家畜改良科、飼養管理科、草地環境科の体制となる
平成１９年度	県産種雄牛「徳次郎」、「平忠勝」誕生
平成２１年度	県産種雄牛「景勝２１」誕生
平成２３年度	総務課、家畜改良部、飼養管理部、草地環境部の体制となる
平成２４年度	増体改良型の新しい「やまがた地鶏」誕生

平成２６年度　県産種雄牛「貴福久」、「満開１」誕生

平成２９年度　県産種雄牛「幸花久」、「神安平」誕生
第 11 回全国和牛能力共進会若雄の部で県産候補種雄牛「翼」号が優等賞獲得

令和元年度　県産種雄牛「福福照」誕生
ゲノミック評価済み輸入受精卵産子
「YLES ソングバード トパーズ　スー」誕生

令和２年度　山形県農業総合研究センター畜産研究所と改称
県産種雄牛「冬景２１」、「美結喜」誕生
ゲノミック評価済み輸入受精卵産子
「YLES サンライズ ルビー　サマー」など４頭誕生
県産種雄牛「平忠勝」令和３年１月３日老衰のため死亡

令和３年度　県産種雄牛「翼満開」誕生。
輸入受精卵産子由来受精卵を県内酪農家等へ販売開始。この中の第 1 号として白鷹町内の酪農家において 3 月 22 日雌牛が誕生し、翌 23 日に第２号の雌子牛が誕生。

令和４年度　県産種雄牛「幸紀陸」、「美勝喜」誕生。
県内酪農家等へ販売したプレミアム受精卵から７頭の雌子牛が誕生。
乳用牛２頭が優秀検定雌牛受賞（生涯乳量５万キロ以上且つ体型得点 85 点以上）。
和牛における OPU-IVF 技術を活用した高能力繁殖雌牛の生産実証を開始。
第 12 回全国和牛能力共進会（鹿児島）若雄の部で県産候補種雄牛「幸彦星」号が優等賞獲得。